

子どもたちの「あふれる笑顔 きらめく瞳」をめざして



中学校区一貫教育校園 玉野市立玉小学校 学校だより第47号 (令和6年1月25日)

キャリア教育

志とは“心指(さ)す”



1月23日(火)、6年生が【志(こころざし)の授業】を受けました。講師はNPO法人岡山立志教育支援プロジェクト認定講師の白重俊介さんです。

この授業で、6年生一人一人が「自分の志=心が指す方向(なりたい自分)」を考えました。(昨年度の6年生もこの授業を白重さんから受けました。昨年度の6年生も自分のことをしっかりと考えていました。その時の様子を昨年度の学校だより第24号にのせました。ここから先はその学校だよりとほぼ同じ内容になりますが、みなさんにも考えてほしいので、もう一度のせたいと思います。)

白重さんの言葉から

「みなさん一人一人が自分の【人生経営の社長】です。社長の条件は、①変えられる未来を見る人 ②もっとよくなる未来を考える人 ③その未来を形にしていける人です。自分の人生、自分の未来をイメージしよう。」

自分の人生を自分で描けるようにしよう。

人生経営の社長就任は10歳から。

幸せになれる言葉第1位は“ありがとう”…小さなことにも“ありがとう”と感謝できる人は必ず周りの人達から“ありがとう”と感謝される人になる。

うさぎとかめ…うさぎはかめを見ていた。かめはゴールを見ていた。見ているものがちがう。人と比べるのではなく、自分が決めた道をゆっくりでもいいから進む。

得意なことや好きなことを組み合わせて、なりたい職業について考えよう。



6年生が自分の将来のことを考えられるヒントをたくさんいただきました。

その後、それぞれの人がお家の方に書いていただいた「あなたのよいところ・得意なこと」を開きました。どの人も「何が書いているのだろう？」と楽しみにしている様子やじっくりと何度も読んでいた様子でした。

その中には「そうそう！」という自分でもそう思っている



部分や「自分にはこんなところがあったんだ！」という新たな部分の発見もあったと思います。

お家の方に書いていただいたものは一人一人にとって【自分を見つめる宝物】になったと思います。(書いていただいたことは事前に担任から聞いていました。二人で「ありがたいなあ」と話しました。保護者の皆様、お忙しい中、ありがとうございました。)

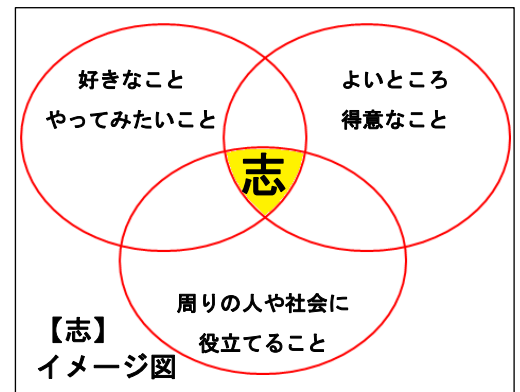


授業の中では、お家の方に書いていただいたことから、それぞれ「自分は何に向いているのだろう？」と考える時間があり、白重さんも一人一人と対話をしながら進められていました。

私が思う 志（なりたい自分）を 考える時に

（少しむずかしいお話なので、低学年の人はお家の人と一緒に読んでください）

私は【志】は右のイメージ図のように、3つのことが合わさったところ（黄色の部分）だと思います。



- 自分はどんなことが好きか？ やってみたいか？
- 自分の得意なことは何か？（6年生は、お家の方に書いていただいたものを参考に）
- 周りの人や社会にどんなことで役立ちたいか？

例えば…

- ・ 野球が好き、人と話すのが好き、運動が得意なので、スポーツ用品店などで野球を続けながら勤め、商品を売りながら、多くの人に野球の楽しさを伝えていきたい。
- ・ 結婚式のプランナーをやりたい、人を楽しませることが得意なので、その人達にあった一生思い出に残る結婚式を企画したい。

昨年度の学校だよりもものせました

私の立志

今から40数年前。私が中学1年生の時に「将来、どんな職業に就きたいか」ということを書くように担任の先生に言われました。私は迷わず「**工員**」と書きました。（当時、その職業を工員と言うのかどうかは分かりませんでしたが、イメージしたのは自動車の生産ラインで働き、車を組み立てる仕事です）なぜなら私は**ものづくりが好き**で、**自分では得意**だと思っていました。そして**カッコいい自動車を作って、世の中の人に乘ってもらいたい**とも思っていました。だから「**工員**」でした。当時、スーパーカーブームで、フェラーリやランボルギーニ、ポルシェなどのかっこいい自動車にあこがれていたのも理由の1つでした。

今から思えば、中学1年生の時に描いた未来が「**当たらずとも遠からず**」だったと思っています。「工員」にはならなかったけれど、校長になるまでの31年間、私は「**中学校の技術の教員**」でした。（技術は小学校にはない教科なのでわかりにくいですが、木材や金属などで、ものをつくったり、電気やエネルギーの勉強をしたり、生き物を育てたり、パソコンや情報の勉強をしたりする教科です。小学校の図画工作科や理科、総合的な学習の時間や情報などが関連するところだと思います）

31年間行った授業の中で、その時々生徒達に「一所懸命つくって、長く使おう」と言ってきました。**自分のつくったものが生活に役立つ…私が思っていた「工員」につながるころかなと思っています。**（家庭訪問などに行くと、生徒がつくったものが使われているご家庭がいくつもあり、嬉しかった記憶があります）そしてその時々生徒達は、自分が考えたこと（設計）が形になるように、汗を流して切ったり、削ったり、くっつけたり、使いやすいうように工夫したりと、ものづくりの楽しさやおもしろさ、また難しさを感じていたと思います。

私は今も休日はものづくり（DIY）をしています。プロ（工員）のような作品はできませんが、それなりに味のある作品となり、完成したときには「やったー！」という充実感もっています。

6年生は、今回の授業をもとに今後も「**自分の志を考える**」ことを進めていきます。自分の考えをもっと深めていきましょう。

私は、どんな可能性もあるみなさん一人一人が「**どんな未来を描くのか？**」がとても楽しみです。